

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会調整部会(第1回)
2 会議の開催日時	平成25年7月4日(木) 18時30分から20時35分まで
3 会議の開催場所	第二別館 第3会議室
4 出席者名	審議会委員:横道清孝部会長、渋谷治美副部会長、大久保秀子委員、久野美和子委員、作山康委員、長野基委員、中村仁委員 事務局:江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、南友和、池田宜弘、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・成果目標及び(仮称)皆さんも取り組んでみませんかについて ・(仮称)重点戦略について ・都市づくりの進め方について ・各区の将来像について ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	0人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会 調整部会（第1回） 議事概要

これまでの第1部会～第3部会での審議結果をもとに、(仮称)重点戦略、都市づくりの進め方、各区の将来像等について審議しました。

議題(1) 成果目標及び(仮称)皆さんも取り組んでみませんかについて

事務局から、資料1-1及び1-2に基づき、「成果目標」に関する各部会の主な意見について、資料2-1及び2-2に基づき、「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか」に関する各部会の主な意見について説明があり、部会の共通事項に関する方針について検討しました。

【主な意見】

○成果目標

〈特になし〉

⇒成果目標については、指標や目標値をより適切なものとし、計画の進捗管理に生かせるものとするため、事務局で改めて考え方を整理し、検討していくことになりました。

○(仮称)皆さんも取り組んでみませんか

- ・誰が主体となって呼びかけるのかを明確にした方が良い。自律的なまちづくりを意識して、市民が市民に対して呼びかけるようにした方が良い。
- ・「皆さんも取り組んでみませんか」というタイトルが、上からの押し付けと感じる。市民と一緒に取り組みたいという意思を、いかに表現するかが課題だ。
- ・総合振興計画では一般的に硬い表現を用いるが、このような柔らかい表現を盛り込むことが最先端であることを強調できれば良い。
- ・総合振興計画の硬い表現の中に、突然柔らかい表現が出てくると違和感があるので、明確に位置づけることが必要だ。
- ・小さなことを積み重ねていくことの大切さを表せるように、あまり抽象的な表現ではなく、概ね現在の表現レベルで良い。
- ・タイトルを「皆さんも一緒に取り組んでみませんか」とし、サブタイトルを「～みんなで創るさいたま市の未来～」としてはいかがか。
- ・計画全体のタイトルも意識する必要がある。現行計画のタイトルは「希望(ゆめ)のまちプラン」で、現在すでに主体的な市民活動が展開されていることから、次の段階を見据えて「希望(ゆめ)と一緒に追いかけてよう」などの表現も考えられる。

⇒本部会の意見を踏まえ、タイトルを変更し、サブタイトルを設ける方向で、事務局が調整することになりました。

議題（２）（仮称）重点戦略について

事務局から、資料３－１、３－２、３－３に基づき各部会の主な意見、素案骨子について説明があり、審議しました。

【主な意見】

- ・産業の創出により市を活性化することが大切なので、ぜひ産業を重点戦略の１つの柱としてもらいたい。
 - ・「戦略」というものは、原案のような対症療法的なテーマ設定ではなく、総合的に進めるためにどういう切り口でやるのかというものではないか。
 - ・もっと分かりやすく、目を引くようなキャッチフレーズを掲げるべき。（例：「子どもたちの夢に応えるまちをつくる」「高齢者と女性が活躍できるまちをつくる」など）
 - ・計画の目標年次である７年後をイメージできるよう、身も蓋も無い大胆な表現を用いて、今なぜやらなければならないのかをはっきりと示す方法も考えられる。（例：「環境性能は国際競争力である」など）
 - ・高齢化を問題としてしか捉えていないように感じる。さいたま市の特徴は、団塊世代の高齢化により、今後地域に戻る人が多いということで、高齢者が地域活動や経済の担い手としても主戦力となるというようパラダイム転換をした方が良い。
 - ・高齢者は支援される側であるとは限らず、活躍する主体になり得る。また、高齢者を対象とした産業、コミュニティビジネスの展開などによって、新しい働き方の実現や地域の活性化にもつながる。このようにコミュニティ全体の目指すイメージがあると良い。
 - ・重点戦略５番目は、「情報発信や地域資源の活用」について記載されているが、これは「戦略」ではなく「戦術」を表しているので、産業に入れ替えた方が良い。
 - ・市政は今後どこを軸に都市間競争を戦い抜いていくかを示すべきであり、それを考えたときに、「子ども」「高齢者」「環境」「防災」のテーマ設定は直感的に適切であると思うし、あと一つを考えたときには、やはり「産業」である。
 - ・欧州では１００万都市が都市戦略を持つことは当たり前であり、総花的でなく、的を絞ってしっかりと明示すれば良い。
 - ・順番も重要で、「子ども」、「高齢者」、「産業」、「環境」、「防災」の順とすることが考えられる。
 - ・重点戦略は、「子ども」、「高齢者」、「環境」、「防災」、「産業」の５本柱で再検討してほしい。
- ⇒本部会の意見を踏まえ、重点の柱立てとタイトルなどについて、事務局において検討し、第１部会～第３部会の第５回で素案を提示することになりました。

議題（3）都市づくりの進め方について

事務局から、資料4に基づき素案骨子について説明があり、審議しました。

【主な意見】

- ・さいたま市にはまちづくり条例がなく、ボトムアップ型のまちづくりが遅れていると感じている。市民活動が活性化する一方で、市役所と市民がますます乖離している印象がある。
 - ・区役所には権限が無く、もっとミクロな視点でまちづくりをしていくことを強く打ち出すべきではないか。
 - ・「市民と行政の協働」とあるが、内容は市の取組ばかりで一方通行という印象だ。みんなで協働して都市を創るという未来型の表現があると良い。
 - ・市民活動及び協働の推進条例に明記されているとおり、事業者と大学についても、協働の担い手としてきちんと位置づけた方が良い。
 - ・行政と他の主体との協力関係を構築するためには、相互の信頼が基本であり、まずは信頼関係構築のための目配せが必要だ。
 - ・市民の意識に温度差が相当あると感じていて、この差を埋めていく努力をしなければ、計画が市民から乖離してしまう可能性もある。
 - ・コミュニティづくりが大切であるという市の思いは感じられるが、そのための哲学が見えない。
 - ・市民と行政の協働に関して、第1節「（1）行政情報の共有感の向上」という主観的な表現はおかしいので、情報共有が良い。
 - ・将来を見据えた行財政運営の第3節に関して、公民学連携をもっとPRするなど、市内の知恵を結集し生かす仕組みをしっかりと考える必要がある。
 - ・市長、議員、行政も含め、市民みんなで一致団結してコミュニティを良くしていこうという意味で、自律（オートノミー）を意識すると、都市づくりの進め方の体系の整理がしやすいかもしれない。
- ⇒本部会の意見を踏まえ、事務局が必要な修正を加えたうえで、第1部会～第3部会の第5回で素案を提示することになりました。

議題（4）各区の将来像について

事務局から、資料5-1及び5-2に基づき、「各区の将来像」の策定過程等の説明があり、審議方法等について検討しました。

【主な意見】

- ・北区や南区は、現行基本計画の「将来像」のままで、一般的な表現で区の特徴が示されていないのが気にかかる。
- ・各区の将来像の位置づけについては、区民が作成したことを明示するなど検討してもらいたい。
- ・市民等の意見を伺いながら素案を作成してきたということで、おかしい点等がな

ければ、素案をそのまま生かすということで良いと考えている。
⇒第1部会～第3部会の第5回で素案を提示することになりました。

その他

事務局から、部会の第2回開催日程について連絡しました。
○7月29日（月）午前10時から ときわ会館小ホール